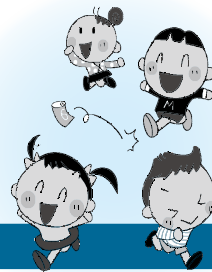


こころをつなぐ まちづくり

人権シリーズ vol.81



82歳、

今でも「識字学級」に学ぶ

12月1～2日、岡山県倉敷市で開催された第64回全国人権・同和教育研究大会に参加しました。開会行事後の「人権確立をめざすまちづくり」分科会では、啓発活動、学習活動、識字学級等をテーマに6人の方から報告がありました。その報告の中、82歳で今なお「識字学級」に通う女性の報告に心をうたれましたのでご紹介します。

「識字学級」とは、差別や貧困が理由で満足に教育を受けられず、文字の読み書きの能力を十分につけられなかった方が、失われた学習の機会を得るための学級です。

「識字の灯は消さない」と題して、今年82歳を迎える奈良県大和郡山市のMさんの



倉敷市マスカットスタジアムでの開会行事

報告です。昭和5年生まれのMさんは、小学校の時代はお国のための労働奉仕、12歳の頃は病弱な母を助け家事や農業の手伝いなどで学習の機会が失われました。

「識字学級」との出会い、43年前の当時39歳の時で、友達に誘われて入級したのが初めてのことでした。最初は、字の上紙を載せての写し書きから始め、次に「あいいうえお」の正しい書き方や本の読み方を習ったそうです。

「識字学級」の発祥地は、九州の筑豊炭鉱であり、当時はみかん箱を机代わりに利用して、人権の解放運動の目的から始まったことを知りました。

Mさんは「もう少し早く識字学級を通じて解放運動に出会えていたら、娘が中学1年生の時、社会科の勉強で自分が被差別部落の出身であると知ったときに、きちんと説明できていたのに」と当時の自分のことを振り返っていました。

文字の習得は、人間の自立を達成し社会認識を深め、人権・平等を得る基本的な学習であります。

Mさんが通うこの「識字学級」には、今年に入り新たに10人の学級生が入級し、文字を習い文字を読む学習が続けられようとしています。

「識字の取り組みや大切さを、多くの人々に広めていくためにまだまだがんばります」とMさんは締めくくりました。

現在でも全国各地では、多くの人が「識字学級」を必要とし努力していることを市民の皆さんにも知っていただきたいと思います。

OA機器の普及により、多くの方々は

日々パソコンを使うケースが多くなっています。文字を入力して、変換ボタンを押すと容易に漢字へ変えることができ、その手法を繰り返すことで、文章を綴ることができます。

漢字等読めない、書けないようになっていいると言われる現在、私たちも日々の努力の必要さを感じた研修でした。

本研究大会へ参加させて頂いたからこそ、当事者の「生の声」を聞く事ができ、語り掛ける様子から人権について色々と感じる事ができました。お互いの人権を尊重し、差別のない国東市を目指し、今まで以上に努力していきたいと考えています。

(文責 国見分室 伊美)

～第6回国東市隣保館まつり

「川柳の川柳」応募作品～

金婚日思い出語る半世紀

国東町 宗 暁子

いつだって優しく包む母の愛

武蔵町 前田 昌也

お知らせ

☆同和問題学習会（隣保館）

2月14日（木）午後2時～

問い合わせ 国東市隣保館

国東市武蔵町古市1138番地1

☎0978-68-1722